

| | 指導内容 【年間授業計画】 | 科目「日本史A」の具体的な指導目標 【年間授業計画】 | 評価の観点方法 | 予定時数 |
|----|---|--|--|------|
| 4月 | 日本史学習の基礎知識 19世紀の世界とアジア 外国船の来航と海防策 新しい学問と思想 社会の変化と農民の動向 幕藩体制の動揺と幕政・藩政改革 | ○時代区分（西暦、世紀、元号）を理解する。 ○産業革命の進展によってイギリスを中心に資本主義が急速に発展し、欧米諸国が18世紀以降にアジアに進出してきた背景を理解する。 ○ロシア・イギリスなどの外国船の来航と蝦夷地の動向、それに対する海防論や幕府の対外政策について理解する。 ○儒学と教育が普及し、国学と蘭学が隆盛し、封建社会の矛盾を打開・批判する政治思想が出現したことを理解する。 ○商品経済の発達各村社会の変化をもたらし、貧富の差の拡大や飢饉を背景に百姓一揆や村方騒動が増大したことを理解する。 ○幕政改革や藩政改革の内容を理解する。 | 定期考査 授業態度 授業の参加状況 ノート提出 など | 8 |
| 5月 | 【中間考査】 ペリー来航と日米和親条約 通商条約の締結と安政の大獄 貿易の影響と尊王攘夷 倒幕運動の展開 幕府の滅亡と新政府の成立 近代国家の成立と国民の誕生 | ○ペリー来航から日米和親条約にいたる対外情勢の動向と幕府の対応について理解する。 ○通商条約締結に対する国内政局の動向について理解する。 ○開港後の貿易が国内経済の混乱を招き、尊王攘夷運動の激化にも影響したことを理解する。 ○討幕運動の展開と幕府・諸藩・英仏など諸外国の相互の関わりの因果関係を理解する。 ○江戸幕府の滅亡から明治新政府の成立にいたる経過を理解する。 ○版籍奉還・廃藩置県・四民平等政策などを通して明治新政府の政治理念を理解する。 | | 14 |
| 6月 | 地租改正と殖産興業 文明開化 明治政府の国際関係 国境の画定と北海道の開拓 不平士族の反乱と日朝修好条規 | ○明治新政府の近代化政策とそれに対する民衆の動向について理解する。 ○文明開化の実態と民衆の生活・文化への影響を理解する。 ○岩倉使節団の派遣などを通して明治初期の外交について理解する。 ○国境の画定政策を通して江戸時代の「四つの口」に対する明治新政府の対応を理解する。 ○大久保利通と西郷隆盛の動向から明治新政府の動きを理解する。 | | 15 |
| 7月 | 【期末考査】 自由民権運動と政党の結成 松方財政と民権運動の激化 立憲体制の確立 | ○自由民権運動の目的と政府の対応とその結果について理解する。 ○松方財政の国民生活や自由民権運動への影響を理解する。 ○大日本帝国憲法と立憲体制について理解する。 | | 10 |
| 8月 | | | | |

| | 指導内容 【年間授業計画】 | 科目「日本史A」の具体的な指導目標 【年間授業計画】 | 評価の観点方法 | 予定時数 |
|-----|--|---|--|------|
| 9月 | 初期議会と条約改正 日清戦争 日清戦争後の政治と日英同盟 日露戦争 ポーツマス条約と満州・樺太 | ○初期議会の動向と条約改正の成功を、当時の世界情勢に着目して理解する。 ○日清戦争が近代日本に与えた影響を、アジア世界の視点で理解する。 ○日清戦争後の内外情勢の変化や日露対立の原因を理解する。 ○日露戦争の結果によって変化した日本の世界での地位を理解する。 | 定期考査 授業態度 授業の参加状況 ノート提出 など | 10 |
| 10月 | 【中間考査】 韓国の植民地化 近代産業の発展 社会問題の発生と政府の対応 明治の思想・学問・文化 護憲運動と大正デモクラシー 第一次世界大戦への参戦と国際関係の変化 大戦景気と米騒動 | ○満州経営や韓国の植民地化について、国民意識の変化にも着目して理解する。 ○日本の近代産業の発達経緯について理解する。 ○資本主義の発達による社会問題や労働問題の発生と政府の対応を理解する。 ○欧米文化を取り入れて形成された近代文化の特色を、国家主義の浸透を踏まえて理解する。 ○大正デモクラシーの意味とその展開を理解する。 ○第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対応を理解する。 ○ロシア革命の内容とその影響を理解する。 | | 15 |
| 11月 | 政党内閣の成立と戦後恐慌 ヴェルサイユ体制 国際連盟の成立とワシントン体制 社会運動の高まり 関東大震災と政党内閣の時代 大衆文化の成立 金融恐慌と外交政策 世界恐慌と昭和恐慌 | ○ヴェルサイユ講和条約からワシントン体制にいたる動向が世界に与えた影響を理解する。 ○都市中間層の成長と政党政治の動向を理解する。 ○大戦景気から戦後恐慌を経て産業構造や社会の変化をもたらした状況を理解する。 ○様々な社会運動が高揚した時代背景を理解する。 ○大衆文化成立の経済的社会的背景を考察する。 ○恐慌の内容とその影響を理解する。 ○世界恐慌に対する我が国の対応を世界と比較し理解する。 | | 15 |
| 12月 | 【期末考査】 満州事変と国連脱退 二・二六事件と日中戦争 第二次世界大戦と日本 日独伊三国同盟と日米の対立 アジア太平洋戦争（太平洋戦争）の勃発 日本占領下のアジア 戦時下の国民生活 日本の敗戦 占領と改革 占領下の政治と労働運動 | ○満州国建国のねらいやその後の影響を理解する。 ○二・二六事件から日中戦争をへて国家総動員体制に至る過程を理解する。 ○第二次世界大戦の推移と日本の動向を日米関係に注目して理解する。 ○アジア太平洋戦争の展開を理解する。 ○日本の占領下のアジア各地の動向を理解する。 ○戦時下の国民生活の実情と日本の敗戦の経緯を理解する。 ○GHQの改革の方針と具体的内容を理解する。 ○戦後の政党復活や労働運動の高揚の経緯を理解する。 | | 10 |
| 1月 | 【学年末考査】 日本国憲法の制定 冷戦と占領政策の転換 戦後の国際情勢と日本の独立 戦後の国民生活と変化 55年体制の成立 平和運動と安保闘争 高度経済成長 高度経済成長期の日本と世界 安定成長から経済大国へ 経済大国へのみち 冷戦の終結と「昭和」の終わり— 55年体制の崩壊 21世紀をむかえて こんにちの世界と日本の課題 | ○日本国憲法の特徴と成立の意義を理解する。 ○冷戦の激化が日本の占領政策に及ぼした影響を理解する。 ○日本の国際社会復帰と日米安保条約の締結がもたらした課題を理解する。 ○戦争体験、物資不足、民主化が国民にもたらした影響を理解する。 ○55年体制成立の背景と安保闘争の意義を理解する。 ○高度経済成長の経緯とそのひずみを理解する。 ○1970年代の日本の政治経済状況と世界情勢の動向を理解する。 ○経済大国意識や行革路線が現代の社会に与えた影響を理解する。 ○冷戦の終結の背景とバブル経済出現の経緯を理解する。 ○55年体制崩壊後の政局の動向を世界の動向と関連付けて理解する。 ○21世紀の日本の外交と平成不況の問題点を理解する。また、今日の世界と日本の課題を理解する。 | 定期考査 授業態度 授業の参加状況 ノート提出 など | 8 |
| 2月 | | | | |
| 3月 | | | | |

| | 指導内容 【年間授業計画】 | 科目「日本史A」の具体的な指導目標 【年間授業計画】 | 評価の観点方法 | 予定時数 |
|---|------------------|-------------------------------|---------|------|
| 月 | | | | |